

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	瀬戸 智	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『吉中太鼓』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「地域貢献」	3	「自己存在感」	1

**取組のねらい『自己存在感を高める』**

吉中太鼓は今から32年前、「荒れた学校の立て直し」と居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものである。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒を学校に位置付かせ、生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、太鼓を聴いてくれる多くの人たちを感動させるような「心で打つ太鼓」を目指しています。



**取組の具体的内容『主体的な学び』**

太鼓の練習は、総合的な学習の時間を利用し、6月から3月(12月は無し)まで、毎週1～2時間(11月まで3年生は2時間、1月から2年生は2時間)、学年に応じた練習を行っている。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表している。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加し、今やそれぞれのイベントの中心的役割を果たしている。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)	尾道青少年健全育成大会(11月)
バチの受け渡し式(3月)		



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、自ら考え課題を持って練習に励んでいる。

## 取組の課題・創意工夫『継承』

現在の3年生が32期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけでは無く、長年太鼓の指導に関わってきた職員の異動に伴い、昨年度より若手の職員が中心的な指導を行っている。取組を継続させるにも、次の指導者を計画的に育成していくことも大切である。生徒については、毎年3月に「バチの受け渡し式」を通じ、現在の太鼓の頭(リーダー)が次の頭に「頭バチ」を引き継ぐことで、次のリーダーを育てる取組につながっている。



## 取組の成果(効果)『太鼓が人を変える』

3年生になり、人前での発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、人に見てもらうためには何をしないといけないのかを考えるようになり、リーダーを中心に、集団としての意識が高まる。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけでなく、生徒会執行部や運動会の応援リーダー等、各行事においてリーダーとして大きく成長している。その姿は、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれとなっている。



## 今後の展開『吉和で学んでよかった』

ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感をたかめ、「吉和で学んで良かった」と言える生徒を多く輩出していきたい。



## 他教科との関わり『課題設定』

課題を設定し、聴いてくださる人々に感動を与えられる太鼓を演奏するためには、何が必要か、今の自分たちに足りないものは何かについて考え、目標を設定し解決に向かわせるため、各教科と結びつけた学習を行う。体育「体づくり運動」、音楽「和楽器の特徴を知る」、社会「身近な地域調査」道徳「向上心・個性の伸長」との関連を想起させることで、更なる深い学びを創造する。